

平成十九年度 第四十四号

望 遠

東京農業大学

庭球部OB会
農友会硬式庭球部

目次

巻頭言	部長	大矢	四十六	1
チームワーク	OB会長	雪村	佑	
103期の躍進	監督	安藤	貴章	3
三年生				
今年のリーグ戦を終えて	森三	中村	直己	4
今までとは違う自分に出会えた	国三	白井	壮太	4
今年のリーグ戦	経三	笠井	佑史	5
肉離れ (final)	経三	矢部	浩	6
自分 (三年 ver.)	国三	坂口	恵太郎	6
躍進	国三	中村	苗加	7
あと一年	経三	伊代田	彩生子	8
1/2	栄三	太田	彩希	8
挑戦	バ三	任田	銀河	9
ラスト一年	醸三	蕨沢	佐友里	9
二年生				
大死一番	国二	西村	泰紘	0
二年生	国二	佐久間	圭	0
目標	工二	小中原	基伍	0
今年を振り返って	国二	森司	慧伍	1
二度目のリーグを終えて	工二	鷺池	諭	1
私の一年間	国二	丸山	奈津子	1
二年生	国二	大井	春菜	2
テニス部	経二	小柳	早紀	3
今年を振り返って	栄二	服部	友美	3

今年	経二	志岐	光	14
躍進二回目	栄二	佐藤	若香菜	14

一 年 生

一年生として	国一	青木	秀人	15
躍進	造一	林翔	太郎	15
苦しかった夏休み	経一	石井	万由奈	15
部活という名の組織	造一	伊東	左江子	16
生涯テニスプレーヤー	国一	知念	美樹	17
一年	バ一	三村	綾	17

四年生寄稿

躍進	企四	山本	善太	18
4年間	企四	大野	雅史	18
躍進	譲四	大澤	圭吾	19
御礼	譲四	赤穂	賢司郎	20

OB特別寄稿

農大テニス部及びOB会のさらなる躍進を願う	昭和三十二年卒	廣瀬	清純	21
スポーツマンシップを考える	平成六十三年卒	川井	健	22
農友会硬式庭球部で得たもの	平成十六年卒	宮下	祥子	22

OB・OGの皆さんからの近況報告と現役へのメッセージ	OB会だより	24
----------------------------	-------	--------	----

活動報告	部活動報告	26
戦績	さらば先輩	31

平成十九年度関東学生テニス連盟加盟校	編集後記	34
--------------------	-------	------	----

巻頭言

ごあいさつ

部長 大矢 四十六

念願であった新コートが出来上がりました。完成を祝う式は四月十四日、大澤貫寿学長にご臨席いただき農友会関係者、常盤松テニス倶楽部の多数のOB・OGならびに全部員が出席し、神主による安全祈願が併せて行われました。式の後、関係者による初打を行いクレールコートにない新しい感触に触れました。新コートには、大学のご厚意により夜間照明を設置していただけました。これは二面分で照度がやや足りませんが、練習には使用できる光量のものであります。この改善については、照明器の増設を粘り強く大学にお願いするつもりです。新コートの完成には、大澤学長をはじめとする大学関係者、檜垣前部長、常盤松テニス倶楽部の雪村会長ならびに会員の皆様のご尽力をいただきました。改めて厚く御礼を申し上げます。また、部員には、多くの皆様の力添えのおかげで新コートがあることを決して忘れないでいただきたい。なおOB・OGの皆様には、夜八時まで照明が使用できますので、是非新コートでお打ちいただくと共に、部員を激励いただきましたく存じます。さて、新コートで行われた今年のリーグ戦の結果は、男子は入替戦に勝利し二年ぶりの三部に昇格しました。また、女子は三部との入替戦を勝ち抜き二部を堅持しました。部員全員の健闘をたたえてあげたい。このような素晴らしい戦績の背景には、安藤監督はじめコーチの皆様の一方ならぬご尽力と常盤松テニス倶楽部指導委員の絶大なご支援です。さらに時間を割いて試合に駆けつけていただいたOB・OGの応援があります。記して感謝を申し上げます。

ところで、母校は今、生き残りをかけて改革に取り組んでいます。その一翼を担う運動部で対応をせまられております。庭球部では、強化のために常盤松テニス倶楽部指導委員会のご協力を得て、フィジカル、テクニカル、部活動運営のレベルアップをはかりつつあります。これには、一層の努力が必要であり、苦痛が伴います。しかし、厳しさを乗り越えないと、優勝、昇格はありません。これが運動部として大学への貢献と思えます。部員諸君には、大学を支えているという自覚と誇りを持って臨んでいただきたい。部員のご父兄、常盤松テニス倶楽部の皆様には、苦痛に立ち向かう部員への激励と支援をよろしくお願い申し上げます。

チームワーク

OB会長 雪村 侑

広島県から東京農業大学に在学する者は、年一回広島県人会を開催している。その時に話になるのがプロ野球、カープのことである。

そうして「東京農大カープ応援団をつくり、神宮球場に応援に行こう」と元気に話が出る。これはプロ野球のことであるが、選手と外野席から一体となって勝ちに行く話で、一つのチームワークである。

「チームワーク」は、これはプロ・アマスポーツに限らず、試合に勝つためには一番大切なことである。

テニスダブルスの二人が技術的にも精神的にも、チームワークが良く勝つことが出来るのが最高である。

しかしチームワークはダブルスの二人だけではない。部長以下、監督、コーチの指導のもとに、控の者も含めてチームワークが大切である。

そのことに、部員が気づき、男女共に高いレベルの位置に着いていると思う。

全員が一つになる。OB会も含めて、「東京農業大学硬式庭球部」のチームワークが大事である。

話は少し別なことになるが高校時代レギュラーとして活躍していた者が大学に入り、レギュラーをはずされ、退部した例を他の運動部で見ている。この例は、何を考えて、入部したのか、理解に苦しむ、チーム部員として協力出来ないことである。

全部員がチームワークを良く、全員で協力してさらなる、レベルアップを願うものである。指導される監督、コーチもよろしく願います。

103期の躍進

監督 安藤貴章

平成19年度の103期リーグ戦は、男子が立教大学に入替え戦で勝利し、悲願の3部昇格を果たしました。女子は2部を堅持しました。

男女とも、勝利に向けて最大のハードルである、「緊張感の中でハイパフォーマンスを出す」と言うことを乗り切り、成果を出すことが出来ました。

これらの結果は、百周年記念の砂入り人口芝コートと、ナイター照明が最大限に効果を發揮しました。常盤松テニス倶楽部の皆様には、心から感謝いたします。

現在テニスのトップアスリートが成功する為にはフィジカル（身体）、メンタル（精神）、テクニカル（技術）の3つの要素が必要と言われています。

それらのトレーニングをツアー中でも欠かさず、毎日行っています。

私の現役時代に比べ、現代テニスは科学的に「どうすれば強くなれるか」が分析され、解ってきています。

学生のトップもプロと同様のトレーニングを行いながら、JOP大会等に出場して、全日本に挑戦しています。

また、フューチャーズに出場して世界を感じ、ユニバーシアードを戦っています。

そして、関東学生やインカレを連戦してリーグ戦を戦い、王座を狙っています。

リーグ戦の時期にはピークを迎え、故障を抱えながら戦っている状況です。

とてもハードなスポーツに成っています。

このような厳しい状況ですが、文武両道を目指し、104期はスタートしています。

男子2部昇格、女子1部昇格という目標を掲げ、日々コートで汗を流して頑張っています。

OB、OG、ご父兄の皆様には、是非コートにいらしていただき、声援を送っていただけるよう、お願い致します。

三年生

今年のリーグ戦を終えて

森林総合科学科 中 村 直 己
(東京 私立東海大学菅生高等学校)

今年のリーグ戦を終えて、結果は三部昇格。本当によかったと思います。

自分が入学した年も三部でしたが、その年に四部に降格しました。二年生のときは四部で二位になり、三部五位との入れ替え戦にかかりました。残念ながら昇格することはできませんでした。四年生と三年生は、二年連続で悔しい思いをしてきたので、今年こそはという思いが特に強かったと思います。個人的にも一年のころからリーグ戦に出させてもらっていたので、自分の中でもそういう気持ちはすぐありました。逆に、今年こそは絶対に昇格しなければならぬというプレッシャーなどもあり、また、今年は本場にいろいろなことがあったと思います。テニス部の学校での立場や部の方針の変更、コートの問題や先輩の退部騒動など。さらに本番のリーグ戦では、ジャッジや応援の仕方などで例年以上にもめました。事件もおきました。

みんなそういう状況のなかでリーグを戦いました。しかし、みんなのがんばりと、最後は四年生の意地で三部に昇格できました。三、四年生はほとんど泣きました。こんなにうれしいことはないんじゃないかと思うくらいうれしく思いました。

そして本題です。自分は新しく主将になりました。これからは部をまとめていく立場ということで、気を引き締めていきたいと思っています。正直すでに精神的にやられています、がんばって

きたいと思っています。

来年は、今年の三部昇格で安心することなく、目標は二部に昇格です。色々と試行錯誤し、目標に向かって少しいい方向に、みんなががんばっていきける部にしていきたいと思っています。そして最後はみんなが悔し泣きではなくうれし泣きをしたいと思っています。大矢部長、安藤監督をはじめOB・OGの皆様、ご指導ご鞭撻よろしくお願い致します。

今までとは違う自分に出会えた

国際バイオビジネス学科 白 井 壮 太
(福岡 私立柳川高等学校)

今までスロットと遊びをメインでやってきた。テニスはその次だった自分が変わり始めたのは5月ぐらいの事だった。今まで勝っていたスロットも負け初め、付き合っていた女の子にもふられ、やる事のなくなった僕はふらつとコートに寄ってみた。すると、いつものように西村が、一人で練習をしていた。レギュラーなんてとつくの昔に諦めていた僕は、西村がもうとうまくなってくればいいと思いつき出しなどをしていた。でも、それだけでは満足いかなくなってしまい、元々練習が嫌いではなかった僕は、そこからひたすら練習するようになった。というのが僕のテニスを中心に考えるようになったきっかけである。

まずは西村と夏関に向けて調整に入った。そこで問題になったのが、僕のダブルスのペアがいけないという事に気づいた。強い人はペアを組んでしまっている。しかし僕は強い人と組みたかった。色々考えたあげく、去年レギュラーだったが、それ以来ほとんど練習にも出てこない赤穂さんがいる事に気づいた。赤穂さんは練

習しなくてもセンスだけはずば抜けていた。そこにかけた僕は赤穂さんに僕とダブルスを組んでくれませんかとメールした。そしてたらずに、こんな僕でよければ、と返事が返ってきた。ここから赤穂さんと僕の苦しくも楽しい夏がはじまった。

赤穂さんは自主練なんてしているところなんてほとんど見たことないのに僕が練習しようと誘うと一度も断る事なく僕に付き合ってくれた。逆に赤穂さんから誘われる事が多くなった。そして時間が過ぎるのは早いもので、すぐに夏関の日が来た。結果は僕が足を引く張る形で、一次予選決勝で負けてしまった。赤穂さんは最後の個人戦。せめて二次予選には連れて行きたかった。

夏関も全日程が終了し、次はリーグに向けて熾烈なレギュラー争いが始まった。僕は今年こそはと思い、必死で合宿も頑張ったが結果は補欠だった。しかし、あの廃人だった赤穂さんがレギュラーになった。正直言って悔しかったが、赤穂さんの頑張りを知っていただけに、少し嬉しかった。

試合も始まり、毎回冷や冷やしながらも、順調に勝ち進んでいたが、一番大事な青学戦で問題は起きた。赤穂さんが審判に対する暴言で勝っていたにも関わらず退場してしまった。みんな呆然としてしまい誰もが終わったと思った。しかし、誰も赤穂さんを責める者はいなかった。むしろ、赤穂さんのミスをカバーしようとする者は必死で頑張った。僕は、この部活を馬鹿にしていたが、みんなにも一致団結していたなんて初めて知った。僕も西村の怪我で、単複初出場した。相手はインカレで、ラリーすらさせてもらえなかったが、必死で頑張った。

そして最終戦の学習にも勝ち、四部二位で立教と入れ替え戦になった。みんな必死で頑張る最後は善太さんが激闘を経て勝利した瞬間僕は初めてテニスの試合で涙した。三部に上がったという

のもあったが、なによりも今までの幹部の辛い姿を見ていて本当によく頑張ったと思うと涙が止まらなかった。

今年のリーグ戦

食料環境経済学科 笠井佑史
(埼玉 私立東京農業大学第三高等学校)

今年のリーグ戦を振り返ると、過去三年間のリーグ戦で一番充実したリーグ戦となりました。理由として三部昇格できたことが大きいですが今年のリーグ戦は今までのリーグ戦より自分のテニスができたとともに充実した理由です。今まで三年間リーグ戦に出させてもらってききましたが、過去二年間は自分のテニスが全くといっていいほどできませんでした。今年も負けた試合も何試合もありましたが今までよりは自分のテニスができリーグ戦を初めて勝ち越すことができました。今年は単複重複させて頂きダブルスではペアの赤穂さんには大変お世話になりました。入れ替え戦でのダブルスを勝利した瞬間はとても嬉しかったです。本当にありがとうございました。

四年生の皆さん。自分をリーグ戦で起用してくださり本当にありがとうございました。良い経験となりました。この経験を生かして来年こそは単複全勝を目指します。

自分もとうとう最後の年となりました。悔いのないよう一日一日を大切に過ごし頑張っていきたいです。

余談ですが今年の三月の追いコンが終わった後まで隠していたことをこの場を借りて部員の皆さんにお詫び申し上げます。

肉離れ (final)

食料環境経済学科 矢部 浩
(東京 私立国土館高等学校)

時がたつのは早いものでもう幹部になってしまいました。そして自分は会計に任命されました。これからは、会計の仕事もテニスも幹部として自覚をもって行動していきます。

ここで読者の方にお詫びを申し上げたいと思います。昨年の躍進で選手としてリーグに出ると言っておきながら、一度もコートに立つことがありませんでした。申し訳ありませんでした。しかし、選手のサポートという形で貢献できたことは、いい経験になったと思います。

三部に昇格して、よりきつくなつた部活。毎回トレーニングをして体を強化しています。二年前の悲劇を繰り返さないために・・・。(第四十二号参照)さらに空き時間があれば、にら・・・いや、笠井君と、とことん練習しています。ただ強くなるために。「練習は裏切らない」という言葉を信じてやるしかありません。そして、来年こそは選手としてコートに立ちます。今度はみなさんを裏切りません。がんばります!

最後になりましたが、三年間に及ぶ「肉離れ」(全三作品)をご愛読いただきました、ありがとうございます。またどこかで会いましょう!

P・S ユナカに会計教えるぞ!

自分 (三年 ver.)

国際バイオビジネス学科 坂口 恵太郎
(東京 私立国土館高等学校)

なんだかんだもう三年が経とうとしている。今年は何が一番ウエイト占めていたか考えてみた。一にテニス、二にテニス、三、四がなくて五に喫茶。冷静に農大で一番、いや日本で一番喫茶店(ドトール)に行つた自信がある。私は一人でお茶しているのがとても好きだ。将来はドトールが好きなお子と結婚して、毎朝近所のドトールに行き店を出て、

私「行ってくるね、幸子」

幸子「いつてらつしやい恵ちゃん」

みたいなやりとりをしたものだ。先ほど述べたが私は一人でお茶も好きだが、人と行くのも農大で一番、いや日本で一番好きだという自信がある。その中でも特によく行くメンバーが中村君(直)、矢部君、大澤さんである。中村君、矢部君とは同じトレナーとしてお茶していても激しいバトルを繰り広げている仲である。一方大澤さんとはスロの合間に政治、経済、世界の情勢について討論したりもした。さてさて、テニスの面では全く上達がなかったように思う。強いて言うなら西村コーチに習ったバックハンドのスライスぐらいである。私たちの代からは週六になり練習もきつくなった。だが私はここで逃げずに立向かっていくことこそ男だと考える。一年、二年のときは正直まだ子供だった。しかし、幹部になった今、真剣にテニスに向き合おうと思う。残り一年は安藤監督、遠藤ヘッドコーチ、宮内助監督、その他先輩方、よろしくお願いします。

P・S ドトールのおじちゃん来年もよろしく!

躍進

国際バイオビジネス学科 中村 苗加
(埼玉 県立伊奈学園総合高等学校)

早いもので躍進を書く季節になりました。

思い起こせば昨年の今頃は主将をやらせていただくことになり、とても不安を感じ、どうやればいいのか頭を痛くさせていた時期もあります。あれから一年……。

自分達が幹部になり、部の先頭に立ち後輩をひっぱっていかなければいけないという責任。自分がすべてにおいて全力で取り組みなければ誰もついてきてくれないということを常に考えてきたと自分では思う。しかし結果はかろうじて二部残留。果たして自分は本当にこの一年間全力でやりきれたのだろうか。こうして振り返ってみるとやはり、やり残したことはたくさんある。自分ではやっているつもりでも周りからみてやっていなかったら意味がない。それはやっていないと同じこと。きつとどこかであと一年あるのだから甘い考えを持っていたに違いない。

今年のリーグ戦は全試合出場させていた。戦ってみて一番感じたことは、やはり絶対に勝つという強い気持ちを持ったものが勝てる。そして応援してくれているチームの為に戦うのだということ。どんなに辛い試合でも、もう駄目と思って、最初から最後まで付きつ切りになって、一緒に戦ってくれる仲間の為に頑張ろうと思える。必死で声を囁かし、それでも精一杯の大きな声で応援してくれる。そんな仲間がいるからこそ、ここまで戦い抜けた。これはみんなで辛い練習を乗り越えたからこそできることだと思う。夏休みの練習、合宿。本当にきつかった。辛かった。でもみんなでやり遂げることができた。みんな必死で頑張った。しかし結果は二部五位。それまでだった。やはりやっただけの分しか結果として表れない、辛いことも十分必要だが内容もすごく大事だと思い知らされたリーグ戦だった。

昨年主将をやらせていただき、後悔ばかり残ってしまった。幸いにも私にはもう一年主将をやるという大チャンスがある。何をやらなければいけないのか、何をすれば勝てるのか、などといったことが、一年間かけて見えてきた。絶対に後悔はしたくない。現役でテニスをできるのは最後の年。甘えはもういらない。誰もが認めてくれるように、一切妥協せず、すべて出し切り、最高の形で引退したい。そして完全燃焼をしたい。

最後になりましたが、今年の女子の目標は二部優勝です。チームで力を合わせ、一人ひとりが自覚を持ち精一杯やれば、絶対に結果はついてくると思います。これから一年間来年のリーグに向けて、また気持ちを新たに頑張りたいと思います。雪村会長、大矢部長、安藤監督をはじめ、OB、OGの皆様、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願致します。

あと一年

食料環境経済学科 伊代田彩生子
(静岡 私立西遠女子学園高等学校)

今年度は、すごくいろいろなことに気づかされた一年だった。自分の視野が狭いことも、他人のことを考えているつもりで結局自分のことしか考えていないことも、自分の無神経な行動が他人を不快にさせていることも、自分より何倍も頑張っている人がいるということも、いろんな人が自分のことを見ていて心配してくれていることも、この一年を振り返ってみてやっと気づいた。

二年の後期から幹部になり、やっぱり甘く考えていたから最初はすごく戸惑った。慣れてきたら、他人の目を気にして自分を守るようになった。そして、すごく人に頼ってしまった。

他のことに目が行き過ぎてテニスはいまひとつだった。個人戦も結果を残せていないし、リーグ戦はひどかった。勝つべき相手にあっさり負けてしまった。結局一勝しかしていない。それも入れ替え戦のシングルだけ。でもその最後の一勝は私にとって本当に大きかった。試合の前日に、私が二年生のときに幹部だった先輩から電話で、「伊代田試合でるんだってね。緊張してるでしょ？私が代わりに緊張しといてあげるから伊代田は思いっきりやるんだよ。」って言うていただき、今までで一番強気に試合ができた。そして、農大の勝ちが決まった時に、同期の蒔沢が泣きながら「イヨテイが勝って農大も勝ったんだよ」って言うてくれて本当にうれしかった。今まで私は何をやっていたんだろうって思った。泣いても笑っても後一年。こんなに毎日テニスが好きなだけできることはもうないと思う。来年引退した時に、後悔することのないようにすべてのことに全力で取り組み、完全燃焼したい。

1/2

栄養科学科 太田 彩 希
(茨城 私立清真学園高等学校)

いつの間にかまた躍進の季節がやってきました。去年の今頃は、はやはやの大学生1年生から2年生にあがってたった半年という頃でした。そんな宙に浮いた状態の私たちに幹部という大役が与えられました。主将の中村を筆頭に私たち5人はみんな手探り状態だったと思います。まだ1年生は私たちから教わるべきことがたくさんあったかもしれませぬ。全てちゃんと伝えきれていたか今でも申し訳なく思うことがあります。それでも田中さん、杉山さん、富田さんが残していつてくれた『2部3位』という結果を

心に刻み、まずは1年間リーグにむけて幹部として頑張っていくことになりました。

『2年間』というのが、まずかったのでしょうか。本当なら幹部になったら、部活ラスト1年間ということ、後悔のないよう出来ることは全てやりきることが出来たかもしれません。まだあと1年ある。どこかでそう思っていた私がいました。案の定、今年のリーグの結果は『2部5位』。東海戦に負け5位決定したとき、私は1、2年生に、謝ることしかできませんでした。やっぱり神様はどこかで見ているのだと思いました。この1年間、あと1年ある、という少しずつの甘さがこの結果に表れたのだと思います。入れ替え戦の相手は立教大学。初めての入れ替え戦。よく、上入れ替えにかかった学校は勢いに乗って戦いにくくと言われていたため、相手校の分析をしているとき私たち3年生はとても不安になりました。あのときあれをやっていたら、あんなこともできたよね。あれやっていたら、口から出てくる言葉は後悔の言葉ばかりでした。それでも2部でテニスがしたい、その思いだけで入れ替え戦を乗り越えることが出来ました。

あのとき入れ替え戦を味わったことで、私たち3年生のなかには、二度と入れ替え戦なんて味わいたくないと強く思うことができました。本当に本当にラスト1年。私たちは2年間でも幹部を乗り越えられる選ばれた学年だと思っています。4月になれば初めて部員が4学年揃います。みんなで切磋琢磨しながら、残り1/2テニス生活を満喫していこうと思います。

挑戦

バイオサイエンス学科 任 銀 河
(宮城 私立東北学院榴ヶ岡高校)

早いもので、躍進を書くのも三度目になった。この一年を振り返ってみると、今年はいろんなことに挑戦出来た年だと思う。

一つ目は一ヶ月間韓国に語学留学したこと。

二つ目は日本の大学に通う在日コリアンの代表として母国訪問したこと。

三つ目はタイに三週間農業実習に行ったこと。

(どれもテニスに関することではないが…)

この期間中は部活に参加できず、部員みんなに迷惑をかけたと思う。それと同時に、いろんなことにチャレンジする機会を与えてくれて本当に感謝している。幹部でありながら、この一年間は部活よりも自分のことで一杯一杯になってしまっていたように思う。

もう引退まで残り一年もない。テニスを思いっきり出来るのもおそらく引退するまでの残された期間だけだろう。自分の納得いく形で引退するためにも、自分の出来ること、自分の役割をしっかりと果たし、悔いの残らないよう全力で頑張っていこうと思う。そして2008年もいろんなことに挑戦していきたい。

ラスト一年

醸造科学科 葦 沢 佐 友 里

(東京 都立目黒高等学校)

三年生もう残り少なくなってしまった。就職活動も始まったし、研究室も決まって本当に大学生活も終わりに近づいているのを感じる。

幹部になって一年が経ったが、いまだにあまり実感がないまま。しかし四年生となるとさすがに最高学年なのだと感じざるを

得ない。今年の二部残留を生かして来年も良い結果で締めくくりたい。そして、テニスをいっぱい出来るのもラスト一年だ。もう少し上手くなって卒業したいものだ。部活を含めた色々な事に全力で取り組んでいく一年間にしたい。

最後に夏休みにご迷惑をおかけしたこと申し訳ありませんでした。あと、みんなに黙って隠していた事があってすみませんでした。

二 年 生

大死一番

国際バイオビジネス学科 西 村 泰 紘

(広島 私立広陵高等学校)

紅葉も始まり、風の冷たさを感じ始めた季節、皆様いかがお過ごしでしょうか。

こんにちは、西村です。

私も大学に入り一年半が経ちました。そして、二回目のリーグ戦・・・

『三部昇格』

去年の躍進で、書いた目標を達成できたので良かったです。今回のリーグは、青学戦以外の試合を重複で出させてもらい、シングルではNO・1で出ました。

次の目標は、『あれ〜そういえば、〇〇〇〇〇・・・って言っていた気がする・・・と連呼』。

頑張ります。

二 年 生

国際バイオビジネス学科 佐 久 間 圭

(福岡 私立柳川高等学校)

東京農業大学に入って早くも一年半が過ぎました。整備もなく
なり自由な時間が少し増えました。私は今回リーグに一回出させ
てもらいました。しかし、結果は惨敗。とても悔しかったです。
なので、私は髪を黒くし、少し髪も短くしました。この髪で就職
活動がんばります。目標は“日清”です。

目標

生産環境工学科 小 中 原 司 基
(宮崎 県立宮崎農業高等学校)

時が経つのも早いもので、東京農業大学硬式庭球部に入部して
一年半が経過しました。

今回のリーグでは去年果たすことができなかった三部昇格とい
う目標を叶えることができました。しかし私は、質疑権所有者と
してでしかチームに貢献することができずとても悔しい思いをし
ました。

来年はレギュラーとしてチームに貢献したいので、これまで以
上に練習を頑張っていこうと思います。

今年を振り返って

国際バイオビジネス学科 森 慧 伍
(埼玉 私立浦和学院高等学校)

今年一年を振り返ってみて一番印象が強かった思い出は、やは

りリーグの入れ替え戦の山本善太さんが勝ったことです。あの試
合のボーラーをやっていたので間近で試合を見れました。試合が
熱くなっていくつれに自分もボーラーを頑張っていました。そし
て最後のマッチポイントで相手がダブルフォルトをしたとき本当
に感動しました。みんな泣いていました。あの試合はすごくいい
試合でした。今年一年の目標はまず、自分は四年間学連に所属す
ることが決まりましたので、担当する夏関を最後まで失敗するこ
となく、準備の段階から抜かりなく完璧に仕上げていい大会にし
たいです。テニスの方はバックハンドの正確さを上げていきたい
です。幹部交代して色々部活が変わってきていますが、それに対
応して頑張っていきたいです。

二度目のリーグを終えて：

生産環境工学科 鷲 池 論
(埼玉 私立浦和学院高校)

今年、私は個人で結果は出せませんでした。にもかかわらず全
試合に出場させていただきました。しかし結果は二勝三敗一引き
分け、というさんざんな結果で、とても戦力になったとはいえま
せんでした。来年は三部なので、今年戦った人達より強いので気
合を入れて練習していきたいと思っています。

私の一年間

国際バイオビジネス学科 丸 山 奈 津 子
(東京 私立川村高等学校)

この時期がやって来たと思うと、一年がものすごく早いと思っ
た。二年になり、あの大変な整備から開放され、一年の仕事がな

くなった。

しかし、私は一年の終わりに二年の初めに掛けて右肩の怪我をした。二年是最悪の始まり方をした。自分の好きなテニスが出来ず、皆の打っているのをただ見ているのが本当につらかった。

大きな整形外科病院へ行き、右肩をMRIで撮った。「右肩関節唇損傷」・・・聞いたことのないような言葉。手術をするか注射の痛み止めを何本か打って治るかもと言われた。私は注射を選んだ。二週間に一本の割合で打った。

時が経つにつれて痛みもなくなり、あの時の痛みが嘘のように消えている。本当に完治したか分からないが、治っている。練習にも参加できるようになった。本当に久しぶりのテニスでかなりテンションも高めだった。あの時の一本目に打った球は忘れない。

そして、また地獄の夏の練習と合宿が来た。案の定きつかった。練習最後の10球から50球は死に物狂いでボールだけを追いかけた。でも仲間がいるからこそ頑張れた。

次に本題に行こうと思う。やはり本題はリーグであった。今年は自分の中で何か違う気がした。4年生がいらないからかスイッチがなかなか入らなかった。しかし、東海戦で負けが決まった時自然と大粒の涙が出た。こんなにも悔しい事なのかと・・・ここから私はスイッチが入った。10月8日立教大と入れ替え戦をした。なんとしても勝たなくてはいけない。応援にも審判にも火がついた。朝からずっと続きナイターも使い試合は続いた。こんなに長いのは初めてだった。最後中村さんか佐藤の試合で勝ちが決まるかだった。ふたりはジャパンの選手かと思った。

急遽佐藤の試合の線審に小柳と入ることになった。佐藤のマッチポイント・・・小柳とアイコンタクトをとった。そしてラインを見た。農大二部残留。走って佐藤に抱きついた。同期が皆抱き

ついた。そしてすぐ中村さんの応援をしに行った。何だか中村さんが笑顔で試合をしているように見えた。私は涙が止まらなかった。中村さんのマッチポイント・・・皆で中村さんに飛びついた。最高に嬉しい。

今年のリーグは色々経験したが、来年はまたこのメンバーと一緒に戦える。本当に嬉しい。来年も厳しいと思うが頑張って行こうと思う。ミナガチユキダカラア。

二年生

国際バイオビジネス学科 大井 春菜
(東京都 都立豊島高等学校)

私の一年は、手術をすることから始まった。どんな一年だ。病院で、「卵巣に腫瘍ができてから取らなきゃね。」と言われた時は本当に驚いた。まず、子供が産めなくなるのではないかと不安になった。そしてその後に、意外にもテニスのことが不安になった。

正直、去年のリーグが終わってからテニスに対しての気持ちが落ちていて、部活の練習が厳しかったり、トレーニングがきつかったりすると、すぐに休みたいと思うようになっていた。調子も上がらず、テニスがあまり好きではなくなっていた。

二月の終わりに手術をすることが決まり、四ヶ月近くテニスができなくなるとわかったとき、自分でも驚くほど泣けた。自分がテニスを好きだったことに気づけて、少し嬉しかった。

復帰してから始めてボールを打ったとき、とても気持ちよかった。テニスを始めた時と同じような感覚だった。復帰してすぐに春関があり、夏関があり合宿があり出会いがあり別れがあり黒く

なったり白くなったりあつという間にリーグを迎えた。やつぱりリーグはすごい。最後の入れ替え戦では、本当にチームが一つになれた気がした。

手術をして、テニスを離れてみて、普段厳しい練習をできることは幸せなことだと思えるようになった。だからこれからも部活をがんばって、胸を張って引退して、いつか元気な子供を産んで、「お母さんは大学時代、暑苦しい青春時代を過ごしたんだよ。」と自慢したい。

長い期間、部活を休んでしまい、ご迷惑をおかけしてすみませんでした。休ませていただいてありがとうございます。また、復帰したときにも温かく迎えてくれて、ありがとうございます。これからがんばります。

テニス部

食料環境経済学科 小 柳 早 紀
(千葉 私立成田高等学校)

去年この躍進を書いている時、来年はどういった気持ちで書いているのだろうと思った。二年になってまず、思ったことは楽だ、ということである。朝の整備もなく、ネットの上げ下げもない。去年よりは余裕を持ってテニスが出来ると思ったが、夏のきつい練習は、去年よりも厳しく、何度もうけそうになった。でも私がかここまで頑張れたのは、テニス部の仲間達のおかげだと思う。特に同期だ。例えば、背がものすごく小さくてまるでテニスが上手いようにみえないけど一度頑張ると決めたら最後までやり通す佐藤。一見ギャルで我が道を行くタイプに見えるが実は、誰よりも周りに気を遣っている志岐。みんなが嫌がるもの(虫とか……)

が好きで馬鹿なことばかりやっているのに何故か憎めない大井。質実剛健または武士という言葉が似合うくらい何事にも真剣に取り組み、何気うちらの代で一番つっこみが厳しい服部。夏になると真っ黒になってしかも頭にコントラローラーがついているけれども、実は、寂しがり屋(一緒に歩いてるとぶつかってきます)でカラオケでは歌手みたいいうまいムードメーカーの丸山。こんな五人に囲まれて、また去年一緒に苦しい練習を耐え抜いた三年生、そこに新しく一年生も加わり、今回のリーグを乗り切ってきた。そして、次回またそのメンバーで試合に臨む事となる。私達が去年とどう変わっていくか、どのくらい成長するか楽しみだし、私自身一周りも二周りも成長したい。私たちは、来年幹部になって、みんなをまとめていく立場になる。そのために先輩達の背中をしつかり見て、そして先輩達の意思をついでいく立場になる。そういった事を最近強く実感してきた今日このごろ、これからもよろしくお願いします。

今年を振り返って

栄養科学科 服 部 友 美
(神奈川 私立東海大学付属相模高等学校)

今年は2年生になって、整備やネット上げ下げなどの辛い仕事がなくなり、精神的にとっても楽になった。

逆に練習面では、素晴らしいオムニコートができたおかげで、練習量が去年よりも増え、特に夏休みはかなり厳しかった。中でも一番キツかったのは十球から五十球の振り回しだ。今年のこの振り回しは、去年とは比べものにならないほどエグいメニューになった。呼吸困難になる人もいた。忍耐力と自信はかなりついた

と思うが、できれば来年はもうやりたくない…。

こんなかんじで辛い練習にも耐え、自分なりに試行錯誤しながら頑張ってきたつもりだったが、戦績はというと、今年も全く良い結果を残すことができなかった。とても悔しかったし、悲しかった。

先日、テレビで「努力しても報われないことは多いけれど、努力しなければ報われることはない」と言っている人がいた。本当にその通りだと思う。そんなに努力しなくても才能とセンスで勝てちゃう人も中にはいるけど、私にはそんな才能はない。たとえ努力が結果につながらなくても、やっぱりここで諦めるのは悔しいから、投げ出さずに、いつか結果が出ると信じてこれからも頑張ろうと思う。来年こそはレギュラーになるぞ！
皆さん、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いします。

今年

食料環境経済学科 志 岐 光
(埼玉 私立秀明英光高等学校)

今年もあと少しで終わる。去年よりも仕事が減り、自分の中に少し余裕ができた。1日1日が自分のやりたいこと、やらなければいけないことに追われてあつとゆう間に過ぎていった。あと半年したら3年になって大学生活の後半に入ってしまう。1年後には幹部になり就活も始まってしまうということが考えられない。今年には新進で2次Fまでいったが、相手との実力の差がありすぎて1ゲームも取れなかった。春関ではまた2次Fまでいったが、同じくらいの実力の相手に3―6、3―6で負けた。夏関は研修で出られず、リーグではシングルス全試合出させて頂いたが、1

勝5敗。そのうち4試合は実力の差があまりない相手で3試合はファイナルまで競ったが負けた。

今年の目標だった関東学生にもなれず、リーグでもシングルス全試合出させて頂いたのに結果を出せず悔いの残る1年だった。リーグで自分のテニスが分からなくなって、今すぐテニスが出ない。これから自分はどうゆうテニスをしたいのか、何をすべきなのかを考えて来年は悔いの残らないテニスをして結果を出したい。

躍進二回目

栄養科学科 佐 藤 若 香 菜
(新潟 私立新潟青陵高等学校)

躍進を書くのは今回で二回目だ。去年初めて躍進を書いて、出来上がった躍進を楽しんで読んでいた。面白い文章を書いている人もいたし、まじめな文章を書いている人もいた。読んでいくうちに引退した四年生の最後の躍進にたどり着き、文章を読んでいるだけで感動した。四年生のリーグへの熱い思いが、四年間の頑張りが文章だけで伝わってきた。

出来上がった躍進の最後には、その年度のリーグの戦績が記載される。それを見ていると、自分が戦った相手なのに、この人どんな相手だったわけ？こんなスコアだったわけ？というのが何個も出てきた。自分以外の人の試合も、応援したはずなのにあまり覚えていなかった。私はその時初めて、自分はリーグに出ただけで満足していたことに気付いた。リーグ中は勝つたらとても嬉しくて喜び、負けたらすごく悔しい思いをした。でもそれは、実はそういう気持ちになったかと思っただけの思い過ぎだった。

た・・・。すごく反省した。すごく後悔した。引退した四年生に申し訳ない気持ちでいっぱいになった。それが最後のリーグになった田中さんと富田さんは、同じチームにそんな気持ちでやってた奴がいたと知ったらどう思うだろう。杉山さんは試合に出た気持ちを抑えて私達選手のために一生懸命サポートしてくれたのに、自分が最後にサポートした相手がそんな気持ちだったと知ったらどう思うだろう。私が選手になったがために、自分が応援や審判やボーラーになってしまった先輩や同期がこのことを知ったらどう思うだろう。後悔は絶えなかった。

そんな想いを抱えながら、今年のリーグに望んだ。去年を反省しながらだったので、今年のリーグは一戦一戦想いを込めた。結果は最悪だった。自分でも呆れた。悔し涙は止まらなかった。しかし、一戦一戦に想いを込めるということはこういうことだと思う。自然と涙がこぼれてしまうのが当然だ。気が付けば、初戦の日体戦から悔し涙を流していた。

こうして、私は躍進でまさに「躍進」することができたのだ。躍進に感謝。今年は試合に想いを込めることはできたが、結果はついてこなかった。来年は結果もついてくれば最高である。

一 年 生

一年生として

国際バイオビジネス学科 青 木 秀 人
(埼玉 私立浦和学院高等学校)

私が東京農業大学に入学して、早くも七ヶ月が経ちました。この七ヶ月で始めは五人いた一年生が今は二人しかいなくなっ

まい、今現在、一年生の仕事が完璧にできず先輩に迷惑をかけることが多々ある状況です。これから来年の新一年生が入部するまでの五ヶ月間をいままです以上に頑張っていきたいと思います。

躍進

地域環境化学科造園化学科 林 翔 太 郎
(福井 私立敦賀気比高等学校)

四月からいま現在までを振り返って、一年生として仕事と部活を両立してきました。私の代は一年生が2人しかいなくなってしまう、かなり大変ですが、夏休みからリーグ戦を経てなんとかふたりでやってきました。仕事の量がかなり多くて肝心のテニスのレベルが下がってしまいました。冬のトレーニングをしっかりとこなしテニスと仕事を両方ともしっかりとしていきたいです。

苦しかった夏休み

食料環境経済学科 石 井 万 由 奈
(千葉 私立東京字館高等学校)

大学生になってから初めての夏休み。高校の頃から夏休みは辛い合宿があったりして嫌いでした。大学の夏休みは今まで以上に休みが長く、練習時間も長く、練習内容もきつく：本当に夏休みがくるのが憂鬱で仕方ありませんでした。

そんな夏休みの一番の思い出は、熱中症で倒れて救急車で運ばれたことです。

忘れもしない八月八日。その日は朝から体調が悪く、練習中も少しフラフラしていました。でも、部活は最後まで出て終わりに

なつた瞬間に倒れてしまいました。それから記憶は途切れ途切れにしか覚えていませんが、先輩方が水をかけてくれたりして冷

やしてくれたのは覚えてます。少し大げさかもしれませんが、あの処置がなかったら：と思います。あの時は皆さんに大変ご迷惑をおかけしまして本当に申し訳ありませんでした。

それから、救急車が来て病院に運ばれ無事に復活することができました。農大に入っていないからきつと救急車に乗ることもできなかったと思います。貴重な体験をさせてもらいました。

倒れてからはしばらく部活を休ませて頂き、元気になってから復活しましたが、部内でのランキングは落ち、辛い日々が続きました。リーグ戦に出ることを目標にしましたが、今年はきつとリーグ戦までにはランキングは戻らないだろうと思っていました。ランキングは落ちるのは簡単なのに上げるとは大変だということを実感しました。何度もリーグ戦に出るという目標は諦めようとも思いましたが、どうしても諦めきれずできる限り頑張ろうという気持ちになりました。

そして、その結果リーグ戦に出られることになり、あの時に諦めなくて良かったなと思いました。結局リーグ戦で私は一勝もあげることができませんでしたが、来年こそはリーグ戦で勝ちたいです。そして個人戦では関東学生になりたいです。

大学の夏休みは本当に辛いです、その分夏休みが終わった時は今まで味わったことのないぐらいの達成感がありました。これからは一日一日の練習を大切にして頑張っていきたいです。

部活という名の組織

造園科学科 伊 東 左 江 子

(福島 県立会津高等学校)

私は、大学に入学するまで個人でテニスをしてきました。高校時代は高校のテニス部に所属こそはしていましたが、部活には全く参加をせず、テニスクラブに通うことがほとんどでした。

そんな私がこの東京農業大学の庭球部に入って、いざ活動してみると苦悩の連続でした。大学に入学する以前は、ひたすら自分のことだけを考えて練習したり、行動してきましたが、大学の部活では、自分のことだけではなく、他の部員のことも考えてプレーや行動しなくてはならないということに気付かされました。それは部活という組織の中では、当たり前のことなのですが、今までそういう経験をしたことがなかったので慣れるまでの間、本当に苦労しました。

9月に入って、いよいよリーグ戦が始まりました。1戦目の日体大戦と2戦目の日女体大戦は試合に出ることは出来ず、応援と審判をしました。しかし、レギュラーが試合で頑張っている姿を見ていると、私もコートでプレーがしたい！と強く思いました。

そして、運良く校内戦で勝つことができ、3戦目の慶應戦から入れ替え戦の立教戦まで試合に出させてもらえることになりました。結果はというと、シングルス・ダブルスともに1つとして勝つことができませんでした。敗因として、私自身のモチベーションの低さにあると思いました。私の中でリーグ戦に出場するということが最終もしくは、最大目標になっていたのではないかと思います。それはやはり、私個人であれば何も問題はないのですが、部活という組織の中でそういうモチベーションで臨んでしまったということは本当に全部員に迷惑をかけて

しまったと悔やんで止まないです。

今年、農大のテニス部に入部したことによって、私自身の中で学ぶことが多々あり、いろんな経験ができ、そして漠然とはしていましたが、いろいろな面で成長することができたように感じます。来年もできればリーグ戦に出場できたら...と思っています。しかし今年のようなモチベーションではなく、学んだことを存分に活かして、全部員の期待に応えられるようなプレー、またはそんな選手になりたいと思います。

生涯テニスプレーヤー

国際バイオビジネス学科 知 念 美 樹
(茨城 県立藤代高等学校)

長かったような、あつという間だったような夏休みだった。

途中、虫垂炎に倒れたり幹部にちよつと、ほんのちよつと反抗してみたり、いろんなことに一喜一憂した一年目の夏が終わった。

最初は、リーグつてのが分からなかった。正直なんでみんな躍りになって、リーグにこだわっているのか分からなかった。それが分かっただけ今年の大きな収穫なのかもしれない。

夏休み毎日顔を合わせて、一緒に練習して合宿もやりきって、そんなうちらは、やつぱり仲間なんだろうと思う。リーグで選手として試合に出た時に一番それが分かる。こんな、へっぽこの私を全力で応援してくれる。ポイントをとると一緒にあって歓喜する。地味なプレーなのにオーバリアクションな私ではありますが、本当に部員の皆様、また、会ったこともないのにいつぱい声をかけていただいた、OB・OGの皆様ありがとうございました。応援と選手の一体感。これが団体戦なんだと実感した。

私は、弱い。足りないところを挙げればきりが無い。だからこの一年をかけてレベルアップする。来年また、みんなとカモンしたいから。

しんどいことばかりな夏だったけど、そう悪いもんでもなかった気がしないでもない。

来年こそは、「走れる ブタ」になりたいもんだ。ご指導ご鞭撻のほどよろしく願います。

一年

バイオサイエンス学科 三 村 綾
(埼玉 私立獨協埼玉高等学校)

去年の収穫祭で集まってから、約一年が経ちました。そう考えると、一年というのは短く感じました。しかし、部活の一日はとても長く感じるものです。練習を振り返ると、ダントツにトレーニングについていけないことしか思い出せません。

今年から女子もコート整備が5時集合となりました。私は実家通いですので、始発集合です。朝の3時30分に起床して家を出ます。趣味が睡眠な私には、睡眠時間が足りないです。

夏という季節は嫌いです。死ぬかと思いました。夏を思い出すと、やはり練習とトレーニングについていけないことしか思い出せません。

リーグは2部に残留しました。私以外の一年生はレギュラーだったのであらゆる意味で大変でした。リーグ前の練習では審判ばかりで、ラケットを握らない日というのもありました。のりこえられたのは二年生の先輩方の助けがあったおかげです。

あと三年。がんばっていききたいと思います。

四年生

躍進

生物企業情報学科 山 本 善 太
(埼玉 私立埼玉栄高等学校)

前年度主将でした山本善太です。この4年間部活動をしてたくさん良い思い出ができました。まず、私がここまで続けることができたのは同期の友達や先輩、後輩の支えがあったから今までやってることがました。深く感謝したいと思います。ありがとう。そして、こんなわがままで精神的にもまだ子供だった私を広い心で見届け、面倒を見てくださった安藤監督、遠藤コーチ、宮内さんにも本当にお世話になりました。最後の1年間は主将という役職だったせいか、すごく内容の濃い1年になりました。さんざん幹部のミーティングでは私達が監督、コーチに反抗的な態度をとったり、今考えるととても恥ずかしいくらいの態度をしていました。すみませんでした。

しかし、そんな私たち4年でしたが、皆さんは期待していなかったと思いますが、3部に昇格することができ、最後にこの1年迷惑をかけた恩返しというかお礼というか、ができたと思います。もちろん私自身もすごく嬉しかったし、今まで汗と涙を流しながらやってきた地獄の特訓の日々が結果となってあらわれてくれたということが、なによりも嬉しかったと思います。私自身、この4年間でテニスの技術だけでなく精神的に成長でき、

まさに躍進できたとおもいます。本当に良い思い出ができました。これからの後輩たちの活躍に期待したいと思います。
4年間ありがとうございました。

4年間

生物企業情報学科 大 野 雅 史
(埼玉 私立細田学園高等学校)

早いもので入学してから3年以上が経ち、もう引退を迎えてしまった。ローラーに乗っていたのが3年前だったとはあまり実感がなくて、あの頃は何をしていたのかわからないことだらけで、とても疲れた。先輩が色々と指導してくれたおかげで何とか乗り切った感じだった。今はオムニになったから1年生はわからないだろうけど、当時は結構大変だったな。練習より仕事の方に意識が向いてしまってたけれど、リーグで俺を使ってくれた時はホントうれしかった。高校は団体としては全然強くなかったから、みんなのために試合をしたのは大学に入ってからが初めてだった。すごく緊張した。勝った時は当然うれしかったけど、負けた時はかなり悔しかった。足がつって負けた時はホント申し訳なかったけど、まあ本格的な団体戦が味わえて楽しかった。

学年が1つ上がり、初めて先輩ができた。1年生の頃はおごってもらった側だったからあまりお金は使わなかったけど、2年になり出費が増えた。最初は気を遣ってた1年生も、半年も経たないうちにだいたい調子に乗るようになり、ちよつとは遠慮してくれよ、と内心思ってた。仕事がなくなったら代わりに財布が痛む毎日だったかな。またこの年のリーグでは初めて降格してしまい、とても残念な思いをした。残留できる要素はたくさんあったのに、大事

な試合で俺が取りこぼしてしまった。リーグは何があるかわからないよ、と散々言われてきたのを、自分の身をもって体験してしまった。降格で引退させてしまった4年生、すいません。

3年生になるとバイトやその他のこと(?)でお金に余裕ができたので、色々試合を回るようにした。オープン大会はいろんな人がいるのでとても勉強になったし、そこで知り合った人もたくさんいて、練習もしてくれた。学校の練習もよかったけど、外での練習も楽しかった。またリーグでは初めての4部を体験した。今までずっと3部だったから4部には興味なくて、最初は結構バカにしていた。でもそんな油断もつかの間で、みんな普通に強かった。平均的にシコラーが多くて、3部よりも精神的につらい試合ばかりだった。なんとか入れ替えにはかかったけれど、結局昇格することはできなかった。その試合は勝てる要素が普通にあったから、やっぱりリーグは何が起くるかわからないな、と改めて感じた。

そして幹部になり部をまとめる立場になった。正直この1年が1番大変だったな。リーグで勝つことはもちろん、他のことでしんどい日ばかりだった。練習の仕方が変わったし、試合に出る数も減って、今までやってきたことが殆どでなくなった。最初は戸惑ったしつらかったけど、だからこそリーグで勝てた時はホントうれしかった。青学に負けはしたものの、2位で入れ替えにかかって立教を倒すことができた。あの瞬間つらかった1年間ですべて報われた気がした。大変だったけど今は部活辞めなくてよかったと思ってる。幹部として後輩には何一つしてやれなかったけど、最後にいい置き土産ができてよかった。来年は下じやなくて上の入れ替え見に行くからな!

躍進

醸造科学科 大澤 圭 吾
(長野 私立松本第一高校)

四年間の部活動もついに終わりを迎えました。大学に入学した当初は、コート整備など一年生の仕事に追われ、一日一日がとても長く感じましたが、終わってみれば最後に三部昇格という最高の締めくくりができ、とても短くて楽しい四年間だったような気がします。そして、今年の幹部にも二部昇格できるように頑張ってもらいたいです。四年間大変お世話になりました。

御礼

醸造科学科 赤 穂 賢 司 郎
(長野 私立松商学園高等学校)

楽しかった。終わってみるとそう思える。この三年半で色々なことを学び、様々なことを経験し、確実に自分は成長できた。しかし楽しかったとは言っているものの、決して三年半が楽しいことばかりだったわけではない。

正直一年生のときは辛かった。雨が降ればコート整備の為に朝早く学校に行き、冬は夕暮れ時までローラーを乗ったりした。そんな雑用の毎日で一日一日が長く感じた。しかし、コートに行けば仲間が居て、いつも笑いあいながら話をし、楽しく有意義な時間を過ごせた。今思えばこの時が最もコートに顔を出し、テニスもしていたと思う。二年生になり雑用が無くなり毎日をダラダラと過ごしていた。アルバイトに明け暮れ、部活のある日ですらコートに顔を出さなくなっていた。当時はそのほうがずっと楽で良いと思っていたが、今思い返してみると仲間と交流する貴重な時

間を無駄にした一年間だったと思う。三年生になり自分が上級生ということを感じ始め部活に行くようになった。そのおかげもあってかリーグにも出場させてもらえた。何事もなく充実していた一年間だったと思うが、ただ一つ後悔があるとすれば、対城西戦で寝坊をし、出場できなかったことだ。あの時はみんなに迷惑を掛けた。チームが勝って本当に良かった。心からそう思った。四年生になり就職活動を始めた。そのせいというわけではないが又部活に顔を出さなくなった。このまま何も変わらなず部活も終わりにかと思っていた。その時はそれでいいと思っていた。そんな時ある先輩が声をかけてくれた。「夏間、ペア組んでもらえませんか？」その一言のおかげで私は悔いを残さず現役生活を引退できた。その後輩には今でも心の底から感謝している。

周りからは、さすがに今から練習してもリーグには間に合わないだろうと思われていたと思うが、とりあえず自分にできることはなるべくやってみた。それまで持っていたちっぽけな自尊心を捨て練習した。真剣に物事に取り組むこと、頑張ることは恥ずかしい事と思っており、なかなか行動に移せず終わってきたが、朝練等もしてみた。結果、リーグにも出場でき、みんなも応援してくれた。私が退場してしまったときも誰も責めずにチームの勝利の為に応援し続けてくれた。その試合、チームは負けてしまい退場した申し訳なさや悔しさもあったが、それ以上に不謹慎かもしれないが仲間の素晴らしさや優しさに涙が止まらなかった。その後、入れ替え戦に掛かることができ最終的には三部昇格という結果も残せ、最高の締めくくりで引退することができた。

部員のみんなには頭を下げてもらえないぐらい感謝しています。この三年半で仲間の大切さをみんなに教えてもらいました。ありがとうございます。

その中でも特に同学年の三人には感謝しています。部活でも問題児で、部活のこと以外でも迷惑をかけました。そんな私でも付き合ってくれてありがとうございます。これからそれぞれが自分の選んだ道に進み、歩んでいくこととなりますが、何らかの形で付き合い続けることができればと思います。本当に三年半ありがとうございました。

OB 特別寄稿

農大テニス部及びOB会のさらなる躍進を願う

昭和三十三年卒 廣 瀬 清 純

私は、農大テニス部を卒業以来、はや半世紀が過ぎました。昭和30年当時と今を比べるとテニス部やその活動環境が大きく変わり、発展の目覚ましさに隔世の感を覚えます。学連硬式テニス加盟校数が約30から100校に、4部制が7部制に、この中にある農大は女子、男子（過去）とも2部にて活躍、現役部員数も当時約20名程度から40名以上へと大所帯となり活動範囲、内容も充実して躍進している姿に感激しております。

これら、発展の陰には部員の日々ひたむきな努力と部長先生や監督、コーチ各氏のご指導があったればこそと、更にはOB会長をはじめとするOB諸氏の熱心な支援の賜物と心より敬意を表す次第です。

私は、北海道の在住で遠隔の地ゆえ、OB総会をはじめ各種の会合、応援等には全く出席せず失礼しております。ただ、現役勤務の出張の折、コートのフェンス越しに熱心な練習を見たことと、部創立100周年記念式典に出席させていただき盛会の中に関係者皆様の母校テニスにかける熱意と期待の大きさに感動いたしました。

した。現役部員の情熱とパワーにも驚かされました。

さて、ここでOB会活動の活発化と現役への支援について1、2参考までにふれたいと思います。

1・OB会誌（広報紙）の発行により会費会員を増やす

OB会員は誰しも母校テニス部の活動状況やOB会員の消息、活躍等を知りたいものです。B4の用紙1枚くらいにまとめ会費納入振替用紙と納入依頼用紙を同封し会員に送付してはどうか。この場合は、労力、経費もさほどからず会費会員数が増えるのではないかと思います。

私は、毎年「躍進」を届けていただき、部の活動状況や成績を知ることができ大変有難く恐縮に思っています。

2・部員によるOB会員（宅）への訪問

テニス部員が東京及び近隣のOB会員を訪問し、部の活動状況やOB会費の状況など話すことにより、OB会員とテニス部のつながりや絆が一層深まり、会費や応援、そして現役部員の将来についても良い結果が生まれるものと思います。

地方出身の部員の場合、帰省の時近くにOBがいて訪問可能であれば是非実行するのが良いと思います。

まもなく新しいシーズンが始まります。部員の皆さんは、来年度こそはリーグ優勝を果たし上部昇格を実現すべく、部員一丸となり練習に励むことと思います。試合の成果はまぐれはありません。試合では練習以上のことは出来ないものです。部員には、レギュラー以外の人も多くいるはずですが、すべての部員に共通して言えることは、優勝することは大切ですが、それよりも、それを目指す意識と努力が最も大切です。自己の目標に向かい全力を傾け、悔いのないシーズンになるよう期待をしております。

スポーツマンシップを考える

昭和六十三年卒 川 井 健

現役の皆様、監督 コーチの皆様。男子三部昇格おめでとうございます。そして女子二部でのご活躍、大変輝かしく思っております。富田先輩より躍進原稿の依頼を受け、僭越ですが寄稿させていただきます。

「スポーツマンシップ」。物心がついた頃から耳にし始めて何十回、何百回と聞いてきた言葉です。小学校の運動会でも、高校野球でもプロスポーツの世界でも。なにげなく聞いてきた「スポーツマンシップ」とは果たしてどのような意味なのでしょう。私は社会に出てから「あなたはずっとテニスをやられてきたスポーツマンですね。信用できますね。」と言われた事がありました。テニスをしてきたからスポーツマン？残念ながら運動をしているからスポーツマン、学生時代にテニスに打ち込んだからスポーツマンといわれるのは間違えではないでしょうか。スポーツマンというのは「スポーツマンシップ」という心構えを持った人だと考えます。スポーツを本当に楽しむためには一生懸命にやる必要があります。でも、それだけでは駄目だと思います。いくら自分が一生懸命やつても相手が真剣でなければ楽しめません。スポーツを楽しむ為には、自分の事だけを考えていても駄目なのです。スポーツマンはまわりの事がよくみえており、相手がいかに大切なかがわかっており、しっかりと行動に移せること。それが大切ではないでしょうか。

私が農大テニス部の現役でプレーさせていただいた四年間、あるいはもっと前の中学、高校時代は我武者羅に勝つという結果だ

けを見据えていました。リーグ戦の応援では相手の選手にヤジを
とばした事もあったかと思いますが。私が言った言葉で相手選手が
余計なことを考えポイントを落としたかもしれません。そして
それがきっかけでチームに勝利をもたらしたかもしれません。し
かし、それでは相手が全力を発揮して、お互いの全力でのプレー
での最高の舞台に水を差したことで以外の何事でもありません。今、
思い出しでも恥ずかしい限りです。

昨今、話題を振り撒いた亀田騒動。勝利至上主義の弊害であつ
たかと思えます。私は子供にテニスを教える仕事に就いています
が、普段の指導の場面では勝つための指導がほとんどで負けた時
の振る舞いや受け止め方を教えることには、あまり時間を費やし
ておりませんでした。しかし、今回の騒動で再考させられました。
勝ち続ける子供より、負けることを経験する子供の方がはるかに
多い事、真剣に試合に向き合って負けたという現実を容認できる
人間づくりの大切さを痛感しました。そして、テニスという競技
を通じてスポーツマンシップを子供たちとともに学び、農大テニ
ス部で経験させていただいた農大魂を子供たちに伝えていけたら
と考えております。農大テニス部のみなさんのご活躍を心よりお
祈り申し上げます。

農友会硬式庭球部で得たもの

平成十六年卒 宮 下 祥 子(旧姓 青山)

引退してからもう四年が経ちました。

私が一・二年生の時は四部昇格を目指し、三年生の時に四部昇
格、四年生の時には三部昇格、そして引退後の二部昇格、二部維
持という、一代一代が大切に築いてきた結果が一本に繋がってい

ることを実感し、嬉しく、また誇らしく思います。

私も最後の一年間は「三部昇格」の為に全力を注いでいました。
今振り返ってみると最後の一年間は主将という役職も頂き、濃厚
な一年間だったと思います。「必ず三部昇格！」と目標を掲げた以
上、悔いの残らないよう、自分に厳しく、やるべきことを精一杯
やっていくと決めたものの、現実には壁ばかりでした。考えすぎ
て空回りをしたり、肝心な所に目が届かなかつたりと、悪戦苦闘
の一年間でした。そんな中、私の目の届かない所をフォローして
くれたり、部活について何時間も一緒に話し合ったり悩んだりし
てくれた同期の近江喜美さん、武居ゆかさんの存在はとても心強
いものでした。時には意見が食い違い、ぶつかりながらも三部昇
格に向けて一致団結して頑張つて来れたのは、この同期がいてく
れたからです。こんなに何でも話しができ、気兼ねなく付き合え
る友人は他にいないくらいです。大切な親友を部活を通して得る
ことが出来ました。

また、一年生の時から一緒に練習をしたり、しょっちゅう飲み
に行ったり、私がテニスをする中で最も大きな影響を与えて下さ
った先輩の青山(旧姓:高橋)敦子さん、島尾もも香さんは、現役中
たくさん相談にのって頂き、また支えて頂き、時には怒られ、時
には胸を貸して下さったりと、私にとってこの先輩方は尊敬と目
標でした。

そして、私自身が成長出来たのは、現在の安藤監督のご指導が
あったからです。当時は女子部のコーチでした。安藤監督はとて
も厳しく恐い存在でした。でもとても温かく、部活と私の成長の
為にあえて厳しい事を言って下さる安藤監督の事を信頼していま
した。勝つ為に必要な事を熱心に教えて頂きました。私が間違っ
た方向に進もうとすると厳しく怒られ、またたくさん悩み・考え

るきっかけを頂きました。悩み・考える事で、一步一步成長してきたように思います。

“やるべきこと”をやり続けることは勝つ為にとっても大切なことですが、根気が必要です。それを全力でサポートして下さった監督・コーチやOB・OGの方々の存在、ぶつかりながらも必死に付いてきてくれた後輩やそれを支えてくれた同期、皆で色々な事を乗り越えて得た結果が「三部昇格」でした。この経験は、部活引退後もずっと、良い経験として私の中に残っています。それは私だけでなく部員全員にとっても同じだと思います。

今の女子部は中村主将を筆頭にとっても素直で良いチームだと、夏合宿、リーグ戦を見て思いました。今年のリーグ戦はとても苦しい試合が多かったと思います。それを乗り越え、二部維持、本当におめでとう！色々な壁にぶつかる事も多いかと思いますが、自分の為になる、自分の成長に繋がると思っている目標に向かって頑張ってください。

最後に、今のテニス部に少しずつですが、自分の出来る範囲で恩返しが出来ればと思っています。応援しています。ありがとうございます。

OB・OGの皆さんからの

近況報告と現役へのメッセージ

昭和二十二年卒 佐藤 忍
地元白水ゴルフクラブでキャプテンをしています。歩くことが健康法です。

昭和二十八年卒 青木 俊雄

卒業以来、ずっとテニスを続けています。テニスのおかげで多くの人と知り合うことができました。現役の皆さん、スポーツマンシップを大切に粘り強くがんばることが、これから社会で強くたくましく生きる上で、大きな力になります。がんばっている姿は、誰かが見てくれるものです。

昭和三十四年卒 水澤 辰夫
学校の教員で軟式テニス部の顧問をしてきました。定年で退職した後は、畑、田圃で身体を動かしています。

昭和三十七年卒 大坪 香樹
テニスが私の健康法。定年後も、毎週月水金と三回はプレーしています。現役諸君は現状に甘えることなく、さらに上を目指してがんばってください。

昭和三十八年卒 隈 輝雄
テニスはしていませんが、いつかコート開きに参加してみたいと思います。

昭和三十九年卒 三浦 重蔵
5年前に退職し、今は地元でキッズテニスの指導をしています。

昭和四十二年卒 岡本 俊光
しばらくテニスをしていませんでしたが、定年後テニススクールで再スタートしました。現役時代に基礎を積んでいたおかげで、

今では上級クラスに入っています。現役諸君は実戦的な練習を重ね、勝てる選手を目指してください。

昭和四十七年卒 中野 千寿子(旧姓 大前)

昨年手を痛めてしまい、テニスを止めてしまいました。今は孫と遊ぶことが幸せです。現役の皆さん、やるからにはがんばって練習に励んでください。

昭和四十八年卒 渡 邊 雅 彰

最近はおっぱらゴルフですが、そろそろ足腰を衰えさせないように、テニスも復活しようと思っています。休んでいる皆さん、テニスを再開しませんか。

昭和五十一年卒 高 木 隆 雄

昭和五十三年卒 絵 実(角田)

箱根駅伝に出場した陸上部に負けぬよう、テニス部もがんばれ。

昭和五十九年卒 鈴 木 健 一

月日は流れ、農大テニス部卒二十四年目、卒業後は、都立有明テニスで心地よい環境にめぐまれテニス三昧その後仕事と家事に追われ、いまや立派なオヤジの仲間入り。現在は、家族や仕事での恩返しと一生懸命毎日過ごしています。最近気になる出来事は、やはり地球温暖化問題でしょう。私などの個人レベルの働きやアメリカのゴア前副大統領のノーベル平和賞の威光では、地球レベルへの波及効果はそれほど期待できないのでは。

農大テニス部出身者としても、地球温暖化の影響は避けて通れない。農作物への影響から生物全体の生存まで危険が確実視されている報道からも明らかな将来予測が話題を呼んでいます。

その現象は、人事ではありません。

考えてみると身近な問題として数年後、夏の猛暑時屋外でテニスがでなくなってしまうかも。

そこで、この問題をグローバルに先導することが出来る人物は、私の知る限りでは、ロジャー・フェデラーくらいしか見当たりませんが、実務レベルには及びません。

つまり、地球温暖化に対するローカルな取組みは、すなわちカントリーに強い農大テニス部関係者が解決、との思いや期待は尽きません。

昭和六十年卒 坂室 敏子(旧姓 河西)

去年からテニスを再開しました。ドライブやフラットが打てるようにがんばっています。(先輩、現役時代、フォアもバックもスライスでしたよね!? 編集富田)

平成五年卒 小坂橋 理恵(旧姓 田野)

長女が幼稚園へ通うようになった頃、村内のテニスクラブへ少し行っておりましたが、すぐに次女を出産したりしたので、もう三年以上ラケットを握っておりません。次女も来年には幼稚園です。今度は子供と一緒にテニスを楽しめそうです。私が学生の頃は、女子は人数が少なく、試合も1つデフォシなればならない様な状態でしたが、今はずい分と違って、皆さんの戦績等を拝見して驚いております。子育てが一段落しましたら、農大のコートでまたテニスを楽しむ時間ができるのでは・・・、と考えております。現役の皆さんは毎日練習や試合でお忙しいでしょうが、目標にむかって一生懸命練習してください。陰ながら応援しております。

平成七年卒 中野 拓也
現役の皆さんには、日頃より精進されていると思います。結果を求めることはもちろんですが、今後、社会人として成功される様に、今を頑張って、充実した生活を送ってください。

平成八年卒 的場 一孝
テニスコートは少々遠ざかっていますが、同期の仲間とは今でも会っています。現役の皆さんも、今の仲間は一生の仲間ですので、テニス部での出会いを大切にしてください。

平成十八年卒 柴原 希和
早いもので、私ももうすぐ社会人三年目になります。あんなに毎日テニスをしていた頃が嘘のように、今は仕事で忙しい毎日、なかなかテニスをする機会がありません。でもテニスが大好きなので、暇があれば農大に行ってテニスをしたり、実家に帰った時は母と一緒にしたり、最近では知人の社会人サークルにも顔を出してテニスをするようになりました。その度にやはりテニスは楽しいなあと実感しています！

現役の皆さんは、毎日毎日練習ばかりで嫌かもしれませんが、部活の仲間と一緒に一つのことに打ち込むという経験は、必ずその後の人生に役立つと思います。もう一度そんな日々を送りたい、できるのは学生時代が最後だと思えます。なので、悔いのない学生生活を送ってください。昨年のリーグ入替戦は、男女共に素晴らしい試合で感動しました！今年も応援していますので、頑張ってください。

平成十八年卒 島津 義人

男子三部昇格おめでとうございます。更に上を目指して、頑張ってください。

* ご寄稿下さいましたOB・OGの皆様、どうもありがとうございました。

OB会だより

◎ 活動報告（平成十九年）

2・17	送別会
3・10	開庭式
4・14	コート開き OB総会
10・20	リーグ戦結果報告会

部活動報告

男子

平成十九年度関東大学テニスリーグ戦

（第四部）

第一戦 対城西大学 9月13日 佐野テニスコート
（6対3）

D No.1 赤穂・山本（3―6 3―6）土屋・神山○
2 ○大野・西村（7―6（2） 6―2）山下・赤坂

3 ○笠井・中村(6―3 6―4)赤坂・藤本
S No. 1 ○西村(6―1 6―2)楡井

2 ○大野(6―1 6―1)赤坂

3 ○鷺池(6―1 6―1)船戸

4 ○笠井(6―1 6―2)神山

5 中村(3―6 4―6)赤坂○

6 山本(4―6 6―3 4―6)鈴木○

第二戦 対成城大学 9月16日 成城コート

(6対3)

D No. 1 ○赤穂・笠井(4―6 6―4 6―2)岩崎・宮本

2 ○中村・西村(6―1 6―2)長井・岡田

3 ○大野・山本(6―4 6―4)坪井・木村

S No. 1 西村(1―6 4―6)岩崎○

2 ○大野(6―1 6―1)長井

3 ○笠井(4―6 7―6(8) 7―6(5))岡田

4 鷺池(4―6 6―4 0―6)木村○

5 ○山本(6―3 7―6(5))坪井

6 中村(0―6 1―6)宮本○

第三戦 対横浜市立大学 9月19日 横浜市立コート

(6対3)

D No. 1 ○赤穂・笠井(6―3 6―2)後藤・山東

2 ○大野・山本(6―4 6―1)航田・井上

3 中村・西村(4―6 0―6)平野・佐藤○

S No. 1 西村(6―7(7) Ret)佐藤○

2 ○大野(6―0 6―1)粕谷

3 ○鷺池(6―3 6―4)後藤
4 笠井(3―6 2―6)平野○
5 ○山本(6―3 6―2)井上
6 ○中村(2―6 6―3 6―2)山東

第四戦 対青山学院大学 9月22日 農大コート

(3対6)

D No. 1 白井・佐久間(2―6 0―6)小野田・竹久○

2 赤穂・笠井(6―4 5―4 Ret)中島・森○

3 ○大野・山本(6―4 7―5)長澤・高頭

S No. 1 白井(0―6 1―6)小野田○

2 大野(3―6 3―6)長澤○

3 ○鷺池(6―3 4―6 6―2)森

4 中村(6―3 3―6 1―6)高頭○

5 笠井(3―6 6―4 2―6)竹久○

6 ○山本(6―3 6―3)中島

最終戦 対学習院大学 9月25日 農大コート

(5対4)

D No. 1 ○西村・中村(7―6(6) 6―4)伊藤・萬里小路

2 ○赤穂・笠井(5―7 6―4 6―3)塚田・石井

3 大野・山本(3―6 3―6)清田・宮本○

S No. 1 西村(4―6 4―6)塚田○

2 ○大野(6―2 6―0)門池

3 鷺池(0―6 7―5 6―3)石井○

4 ○笠井(7―6(6) 6―2)清田

5 中村(7―6(6) 6―7(4) 3―6)宮本○

6 ○山本 (4―6 6―3 6―1) 萬里小路

入替戦 対立教大学 10月7日 立教コート

(5対2)

D No. 1 山本・中村 (6―7 (5) 3―6) 佐藤・益田 ○

2 ○大野・西村 (6―0 6―2) 林・大端

3 ○赤穂・笠井 (6―3 6―0) 藤井・米津

S No. 1 西村 (打ち切り) 佐藤

2 鷺池 (3―4 打ち切り) 林

3 ○大野 (0―6 0―6) 大端

4 ○笠井 (6―4 6―4) 末広

5 中村 (2―6 2―6) 緒形 ○

6 ○山本 (6―4 4―6 6―4) 益田

(以上の結果三部昇格)

平成十九年度関東学生テニストーナメント大会(春関)

男子単二次予選決勝

中村 (2―6 1―6) 田口 (中大) ○

笠井 (4―6 7―5 1―6) 篠ヶ瀬 (明大) ○

女子

平成一九年度関東大学テニスリーグ戦

(第二部)

第一戦 対日本体育大学 9月14日 日体大コート

(0対7)

D No. 1 佐藤・石井 (0―6 0―6) 安西・鶴菌 ○

2 中村・伊代田 (1―6 0―6) 青木・長井 ○

S No. 1 中村 (2―6 1―6) 鶴菌 ○

2 佐藤 (4―6 6―7 (4) 青木 ○

3 石井 (3―6 0―6) 安西 ○

4 志岐 (3―6 1―6) 長井 ○

5 伊代田 (4―6 2―6) 鈴木 ○

第二戦 対日本女子体育大学 9月17日 農大コート

(5対2)

D No. 1 ○中村・佐藤 (7―6 (4) 6―1) 西堀・青木

2 伊代田・知念 (1―6 5―7) 大作・阿久津 ○

S No. 1 ○中村 (6―2 6―2) 大作

2 ○佐藤 (6―1 4―6 6―4) 青木

3 ○知念 (6―3 6―3) 阿久津

4 伊代田 (2―6 1―6) 岩崎 ○

5 ○志岐 (6―2 6―1)

第三戦 対慶應義塾大学 9月20日 慶應大コート

(0対7)

D No. 1 中村・伊東 (1―6 1―6) 渡邊・藤原 ○

2 佐藤・知念 (1―6 3―6) 宇喜多・長尾 ○

S No. 1 佐藤 (3―6 6―1 4―6) 渡邊 ○

2 中村 (0―6 1―6) 守屋 ○

3 伊東 (2―6 2―6) 藤原 ○

4 石井 (1―6 1―6) 平山 ○

5 志岐 (2―6 1―6) 金田 ○

第四戦 対青山学院大学 9月23日 農大コート

(1対6)

D No. 1 中村・伊東 (3-6 5-7) 西改・松本〇
2 佐藤・伊代田 (3-6 0-6) 林・富山〇

S No. 1 〇中村 (6-1 3-6) 佐伯

2 佐藤 (1-6 5-7) 林〇

3 伊東 (3-6 2-6) 加藤〇

4 石井 (4-6 3-6) 前〇

5 志岐 (1-6 3-6) 松本〇

最終戦 対東海大学 9月26日 東海大コート

(2対5)

D No. 1 〇中村・佐藤 (6-4 4-6 6-3) 相澤・宮原

2 知念・伊東 (1-6 4-6) 柴原・増崎〇

S No. 1 〇中村 (2-6 6-3 6-0) 宮原

2 佐藤 (6-1 3-6 5-7) 柴原〇

3 石井 (1-6 4-6) 野宮〇

4 知念 (5-7 1-6) 相澤〇

5 志岐 (2-6 6-4 1-6) 増崎〇

入替戦 対立教大学 10月8日 農大コート

(5対2)

D No. 1 〇中村・佐藤 (7-5 4-6 7-5) 戸澤・松本

2 伊代田・伊東 (2-6 3-6) 塚田・渡邊〇

S No. 1 〇佐藤 (6-1 3-6 6-4) 戸澤

2 〇中村 (7-5 3-6 6-2) 塚田

3 〇知念 (7-6 (3) 6-4) 大森

4 〇伊代田 (6-0 6-3) 五味
5 志岐 (6-1 5-7 5-7) 渡邊〇

(以上の結果2部残留)

平成十九年度関東学生テニストーナメント大会 (春関)

女子単二次予選決勝

〇中村 (6-4 7-5) 吉田 (駒大)

伊代田 (1-6 3-6) 宮原 (東海大) 〇

〇佐藤 (6-2 6-1) 岡田 (日大)

志岐 (3-6 3-6) 井上 (亜大) 〇

石井 (5-7 3-6) 大津 (明海大) 〇

女子単本戦一回戦

中村 (1-6 1-6) 涌井 (東洋英和) 〇

佐藤 (4-6 1-6) 関口 (亜大) 〇

女子複二次予選決勝

中村・佐藤 (1-6 1-6) 藤井・松重 (専大) 〇

志岐・知念 (4-6 4-6) 木津・西崎 (壮大) 〇

平成十九年度関東学生テニス選手権大会 (夏関)

女子単二次予選決勝

中村 (0-6 0-6) 濱崎 (上武大) 〇

佐藤 (3-6 6-3 1-6) 毛利 (青学大) 〇

女子複二次予選決勝

中村・佐藤 (2-6 3-6) 松山・石塚 (専大) 〇

さらば先輩

山本 善太さん

（企業）

ラオウにやられ、OBにやられて、
パトランプで愛を取り戻しました。

大野 雅史さん

（企業）

佐久間は呼んだダルシムと。

大澤 圭吾さん

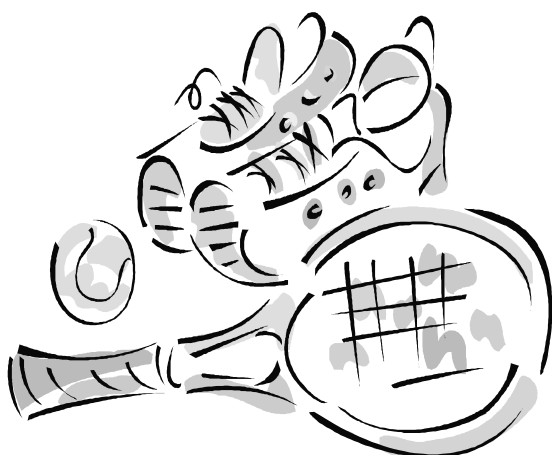
（醸造）

産まれた時から殻かぶる カリメ
ロ〜 カリメロ〜

赤穂 賢司郎さん

（醸造）

パパがんばって〜



平成19年度 関東大学テニスリーグ

男子順位表

第1部	1位 早稲田大学	2位 慶応義塾大学	3位 法政大学
	4位 亜細亜大学	5位 日本大学	6位 中央大学
第2部	1位 明治大学	2位 専修大学	3位 筑波大学
	4位 東海大学	5位 駒澤大学	6位 上武大学
第3部	1位 関東学院大学	2位 千葉商科大学	3位 順天堂大学
	4位 日本体育大学	5位 東京農業大学	6位 青山学院大学
第4部	1位 明海大学	2位 立教大学	3位 学習院大学
	4位 成城大学	5位 横浜国立大学	6位 一橋大学
第5部	1位 横浜国立大学	2位 城西大学	3位 東京理科大学
	4位 千葉大学	5位 東洋大学	6位 上智大学
第6部	1位 東京大学	2位 成蹊大学	3位 帝京大学
	4位 創価大学	5位 首都大学東京	6位 東京学芸大学
第7部	① 武蔵工業大学	② 國學院大學	③ 群馬大学
	④ 武蔵大学	⑤ 大東文化大学	⑥ 拓殖大学
	⑦ ー	⑧ 東京工業大学	⑨ 芝浦工業大学
	⑩ 麗澤大学	⑪ 国士舘大学	⑫ 玉川大学
	⑬ 電気通信大学	⑭ 明星大学	⑮ 文教大学
	常盤大学	桜美林大学	神奈川工科大学
	杏林大学	国際基督教大学	国際武道大学
	埼玉工業大学	産能大学	東京医科歯科大学
	淑徳大学	城西国際大学	山梨学院大学
	聖学院大学	高千穂大学	神奈川大学
	茨城大学	千葉経済大学	湘南工科大学
	都留文科大学	帝京平成大学	東京農工大学
	東京外国語大学	東京工科大学	東京工芸大学
	東京国際大学	東京情報大学	東京成徳大学
	獨協大学	東京電機大学	東京都立科学技術大学
	東京薬科大学	東京商船大学	東京水産大学
	東洋学園大学	日本社会事業大学	宇都宮大学
	明治学院大学	目白大学	駿河台大学
	山梨大学	流通経済大学	横浜商科大学

女子順位表

第1部	1位 早稲田大学	2位 筑波大学	3位 亜細亜大学
	4位 専修大学	5位 日本大学	6位 東洋英和女学院大学
第2部	1位 青山学院大学	2位 慶応義塾大学	3位 日本体育大学
	4位 東海大学	5位 東京農業大学	6位 駒澤大学
第3部	1位 日本女子体育大学	2位 立教大学	3位 学習院大学
	4位 関東学院大学	5位 東京女子体育大学	6位 山梨学院大学
第4部	1位 明海大学	2位 聖心女子大学	3位 成城大学
	4位 成蹊大学	5位 明治学院大学	6位 東洋学園大学
第5部	① 拓殖大学	② 東京大学	③ 横浜国立大学
	④ 上智大学	⑤ 玉川大学	⑥ 横浜市立大学
	⑦ 順天堂大学	⑧ 一橋大学	⑨ 日本女子大学
	⑩ 東京外国語大学	⑪ 武蔵工業大学	⑫ 茨城大学
	⑬ 帝京平成大学	⑭ 大東文化大学	⑮ 首都大学東京
	創価大学	跡見学園女子大学	埼玉大学
	茨城キリスト教大学	大妻女子大学	北里大学
	川村学園女子大学	関東学院女子短期大学	杏林大学
	神田外語大学	共立女子大学	東京工業大学
	共愛学園前橋国際大学	埼玉女子短期大学	国土舘大学
	恵泉女子大学	産能大学	昭和女子大学
	実践女子大学	淑徳大学	聖学院大学
	十文字学園女子大学	駿河台大学	創価女子短期大学
	女子栄養大学	聖徳大学	千葉工業大学
	清泉女子大学	高千穂大学	都留文科大学
	高崎市立高崎経済大学	東京医科歯科大学	鶴見大学
	津田塾大学	東京工芸大学	東京工業大学
	帝京大学	東京女子大学	東京経済大学
	城西大学	東京電機大学	東京水産大学
	東京国際大学	東京都立大学	東京農工大学
	東京薬科大学	東京理科大学	東京家政大学
	東洋大学	東横学園女子短期大学	日本社会事業大学
	神奈川工科大学	フェリス女学院大学	東洋学園大学
	文教学院大学	防衛大学	山梨大学
	明星大学	目白大学	立正大学
	国際基督教大学	横浜商科大学	獨協大学
	一橋大学東京大学	江戸川大学	相模女子大学

編集後記

今年のリーグ戦は、男子三部昇格、女子二部堅持という結果だった。男子も女子も努力した結果だと思っています。現役が頑張るのは当たり前だが、今年は、OB、OGの方々の努力のおかげで、オムニコートが完成した。今年のリーグはそのオムニコートの力をフル活用したと思う。このコートが無ければここまでの結果も出なかっただろう。OB、OGの方々には本当に感謝しています。

2007年の漢字に「偽」が選ばれた。僕の記憶では、今までにこのようなマイナスなイメージの漢字が選ばれたことはない。今、日本がおかしくなっている。ミートホープ、白い恋人、赤福など偽装がバレまくった一年だった。偽りはいつか露見する。まさに、天知る地知る我知る人知るである。昔、どこかで聞いたことがある。

『おてんとうさまが見ているよ』

この言葉を忘れないようにしたい。自分をよく見せようと他人を欺いたとしても、結局痛い目を見るのは自分である。今年一年ぐらいいは、自分を偽ることなく、そして他人を欺くことなく精一杯頑張っていきたいと思う。そうすれば自ずと結果は付いてくると僕は信じている。遠藤さんの言葉を信じ、自分にとって常に辛い方の道を選択していきたい。

今回、躍進発行に当たりご協力してくださったOB、OGの方々に深く御礼申し上げます。

〔白井 壮太〕

東京農業大学農友会硬式庭球部

平成二十年二月

編集委員長 富田 恭正

編集委員 白井 壮太

任 銀河

印刷所 協栄印刷工場所

(三四二七) 一九七三